

目 次

学位論文

- Streptococcus mutans* の病原性における *scrA* および *htrA* 遺伝子の役割 木村 智子 1
- 咬合拳上が海馬神経幹細胞の性質に与える影響について 北本 真史 17
- 睡眠時 6 自由度顎運動測定システムの開発と応用 野口 直人 29
- 青紫半導体レーザーおよび紫外線発光ダイオードによるチタン表面の改質 河野 孝則 45

原著論文

- 上顎歯槽基底弓幅径と聴力との関係
..... 森 博子, 森 泰正, 中村 彩花, 川合 暢彦, 田中 栄二 61

目 次

教授就任総説

- 麻酔と周術期心筋虚血 北畑 洋 71
- シェーグレン症候群に対する病期対応型テーラーメイド医療の構築 東 雅之 85

受賞講演

- 特定波長光の照射による *Porphyromonas gingivalis* の増殖抑制効果 福井 誠 91
- 上皮細胞における抗菌ペプチドの発現調節機構の解明 板東 美香 97

学位論文

- 蛋白質脱リン酸化酵素の細胞内局在と蛋白質脱リン酸化酵素阻害剤による
アポトーシス誘導 木村 幸司 103

臨床指導講演

- 審美歯科をしてみませんか?! -ちょっとした工夫からジルコニアフレームまで- 細木 真紀 115
- 障害(がい)児・保護者への歯科的支援 原田 桂子 127
- 舌痛を訴える患者について考える -舌痛症を中心に- 桃田 幸弘, 東 雅之 133

- 四国歯学会例会報告 139
- 会務報告 145
- 会 則 148
- 投稿規定 151

四国歯学会第36回例会 記 録

プログラム

日時：2010年3月25日（木）16：25より

会場：徳島大学歯学部共通講義室

（5階南側，旧歯科病棟）

16：25 開会の辞 林 良夫 会長

基礎系教育講演

座 長 宮本 洋二

16：30～17：00

口腔顎顔面領域における筋膜隙の局所解剖学

○北村清一郎

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔顎顔面形態学分野

臨床指導講演

座 長 永尾 寛

17：00～17：20

審美歯科をしてみませんか？

—ちょっとした工夫からジルコニアフレームまで—

○細木 真紀

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

咬合管理学分野

17：20～17：40

障碍（しょうがい）児・保護者と共に

○原田 桂子

徳島大学医学部歯学部附属病院小児歯科

一般演題

座 長 大石 慶二

17：40～17：50

タッピングポイントの安定性と咬合接触の関係について

○木村 綾¹，佐藤 泉美¹

西川 啓介²，鈴木 善貴²

野口 直人²，山本 修史²

坂東 永一³

¹徳島大学歯学部歯学科

²徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

咬合管理学分野

³徳島大学名誉教授

17：50～18：00

ハムスター実験的歯周炎における L-Cystein の
歯槽骨吸収抑制効果

○坂本英次郎¹，二宮 雅美¹

米田 哲¹，徳永 格¹

中島由紀子¹

フルジャフ ジャフラン¹

弘田 克彦²，三宅洋一郎²

竹田 洋子³，武村あかね³

永田 俊彦¹

¹徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

歯周歯内治療学分野

²徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔微生物学分野

³サンスター（株）

18：00～18：10

歯磨きを教えよう！

～草の根支援事業プロジェクトと冒険歯科学学生ボラン

ティア（バングラディッシュ JICA - 北海道，東北，

徳島大学）

○森田 康彦¹，中山由香乃²

鳥居ちさほ²，正満 健斗²

山村 浩史²，篠原 響子²

石丸 美穂²，志摩 朋香²

下島 千明²，榎本 麻緒²

柴田 育²，柴 雅樹²

山本 芳輝²，中元 絢子²

¹徳島大学病院歯科放射線科

²北海道大学歯学部歯学科

座 長 内田 大亮

18：10～18：20

口腔扁平上皮癌頸部リンパ節転移症例の FDG-PET/CT

検査における SUV の回帰分析

○久保 典子¹，森田 康彦¹

石丸 直澄²，林 良夫²

森田奈緒美³，大塚 秀樹³

¹徳島大学病院歯科放射線科

²徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔分子病態学分野

³徳島大学病院放射線科

18：20～18：30

最近，頭を悩ませた臨床症例 その5

～片側性下顎頭過成長を伴う顔面非対称症例の

治療経験～

○高丸菜都美¹，玉谷 哲也¹

内田 大亮¹，堀内 信也²

永井 宏和¹，田中 栄二²

宮本 洋二¹

¹徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔疾患制御外科学分野

FROM THE END OF THE SEVENTEENTH

TO THE

PRESENT TIME

BY

JOHN HALLAM

ESQ.

LONDON

1837

²徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
口腔顎顔面矯正学分野

18:30 閉会の辞 河野 文昭 副会長

注意事項

- 基礎系教育講演について
講演時間20分とします。
- 臨床指導講演について
講演時間15分とします。
- 一般講演について
発表時間8分、討論時間2分とします。
- 講演、発表方法について
 - ・発表は液晶プロジェクター、単写とします。
 - ・Microsoft社のPowerPointを用いてスライドを作成して下さい。
 - ・コンピューター（Windows PCとMac）は発表者が御用意下さい。
 - ・前日の3月24日（水）16:00~18:00の間に、動作確認を行ってください。
- 講演、発表後に400字程度の抄録をメール（daisuke@dent.tokushima-u.ac.jp）にてご送付下さい。

第36回例会 基礎系教育講演・臨床指導講演 一般講演抄録

口腔顎顔面領域における筋膜隙の局所解剖学

○北村清一郎

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
口腔顎顔面形態学分野

顔と前頸部は、頸筋膜浅葉とその延長筋膜を境に、浅層と深層の部に分けられるが、浅葉が袋状に空隙を囲ったり、2葉に分かれて空隙を下方から閉ざしたりすることから、浅層の部と深層の部の間に、浅葉内層というべき部が存在する。浅層の部は、顔と前頸部の皮下構造と口腔の粘膜下構造にあたり、筋膜隙として頬隙や犬歯窩隙、頬脂肪体や舌下隙などが含まれる。浅葉内層には、オトガイ下三角隙、顎下三角隙、翼突下顎隙、茎突前隙、耳下腺隙が含まれる。深層の部は頸部内臓と頸部内臓周囲隙、これらの外側の頸動脈鞘と外側頸部に分けられ、筋膜隙として茎突後隙、咽頭後隙・食道後隙、気管前隙、危険隙などが含まれる。顔と前頸部の筋膜隙は上記3区分に分けられ、同じ区分の筋膜隙は交通関係が密

で、炎症などは容易に波及する。さらに拡大すると、隣接する区分の筋膜隙に波及するが、この場合は頸筋膜浅葉や関連筋膜を越えねばならず、波及経路は限られる。

審美歯科をしてみませんか？！

一ちょっとした工夫からジルコニアフレームまで一

○細木 真紀

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
生体システム栄養科学部門摂食機能制御学講座
咬合管理学分野

最近、徳島でも少しずつ、審美修復に対する要望が患者さんから出てくるようになってきました。Pilkingstonは1936年 Journal of American Dental Associationで“審美”を“自然を模写あるいは調和させる作業により、人工物を目立たなくするための科学”と定義しています。歯科の審美を認知するためには、歯の大きさ、形態、色調、傾斜、位置、対称性、比率や質感など様々な因子を総合的にとらえ、調和を与えることが重要です。今回の臨床指導講演では、これらの因子をどのように変化させると、より自然に見せる効果を与えることができるかを解説するとともに、漂白、MTM、審美的レジン充填のような簡単な審美歯科治療から、CAD/CAMシステムの応用により材料学的特性が向上したジルコニアフレームによるメタルフリー修復まで、具体的な症例を紹介します。

謝辞 本講演にあたり、補綴物の製作にご協力いただきました徳島大学病院診療支援部歯科医療技術部門の歯科技工士の方々に厚く御礼申し上げます。

障害（しょうがい）児・保護者と共に

○原田 桂子

徳島大学病院小児歯科

徳島大学病院小児歯科を初診で受診した自閉症児（平均年齢5歳3か月）の母親34人（平均年齢36歳2か月）の保護者教室時と約4年後の定期健診時のSTAI（状態一特性不安尺度）を分析した。一般の同世代の女性の得点と比較すると、保護者教室時の自閉症児の母親の状態不安および特性不安はともに高く、定期健診を継続して受診することによって、状態不安は、有意に減少するものの、特性不安は継続受診後も一般女性よりも高いままであった。

われわれ歯科医師を含めたすべての歯科医療スタッフは、特に初診時においては、総じて母親の不安度は高いものであると想定して、待合室から入室し、診療台への

導入, 診療中, 診療終了して帰るところまで, 十分観察し, 適宜細かいことばかけ・気配りをするのが大事である。また, 障害児への歯科的支援を行うにあたり, 保護者とゆっくりと「今何が困っているか」「何がわからないか」と話し合いながら, 通り一遍のむし歯予防法ではなく, 家庭では実際どのようにするとよいのかという様な個々に合った対応が重要であると考えられる。

タッピングポイントの安定性と咬合接触の関係について

○木村 綾¹, 佐藤 泉美¹
西川 啓介², 鈴木 善貴²
野口 直人², 山本 修史²
坂東 永一³

¹徳島大学歯学部歯学科

²徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
咬合管理学分野

³徳島大学名誉教授

タッピングポイントの安定性と咬合接触の関係を調べることを目的に個性正常咬合を持つ成人8名(男性6名女性2名, 平均年齢29.5±5.8歳)を被験者として調査を行った。被験者のタッピング運動を6自由度顎運動測定器CS-IIIにて測定し, タッピングポイントと咬頭嵌合位間の距離の変動係数から, 各被験者をタッピングポイント安定群と不安定群に分類した。また咬頭嵌合位における咬合接触状態をブラックシリコンで記録し, 厚さ30μm以下の近接部位を咬合接触部位として判定し, 二群間で咬頭接触歯数, 咬合接触面積, 咬合域面積(咬合接触部位を結ぶ多角形の面積)の比較を行った。

調査の結果, タッピングポイント不安定群においては安定群に比較して咬合接触面積が小さくなる傾向が認められた。この結果はタッピング運動を含む顎運動記録に, 咬合機能を評価するための臨床的な情報が含まれていることを示していると考えられる。

ハムスター実験的歯周炎におけるL-Cysteineの歯槽骨吸収抑制効果

○坂本英次郎¹, 二宮 雅美¹
米田 哲¹, 徳永 格¹
中島由紀子¹
フルジャフ ジャフラン¹
弘田 克彦², 三宅洋一郎²
竹田 洋子³, 武村あかね³
永田 俊彦¹

¹徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
歯周歯内治療学分野

²徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
口腔微生物学分野

³サンスター株式会社

システイン(Cys)は, 体内でグルタチオンに代謝され活性酸素の除去を介してサイトカインやマトリックスメタロプロテアーゼ(MMP)の産生を抑制し, 歯周炎の進行を抑制する可能性が報告されている。そこで今回我々は, ハムスター実験的歯周炎モデルを用いてL-Cysの経口投与による歯槽骨吸収抑制効果を検討した。

その結果, マイクロCT解析により, 6週目では2, 4 mg/kg/日のL-Cys投与群において感染群より骨吸収量が減少しており, さらに12週目では, 2, 4, 8 mg/kg/日のL-Cys投与群において骨吸収抑制効果が認められた。組織学的観察では, 12週感染群で認められた付着歯肉の幅の減少や結合組織内の炎症性細胞浸潤は, L-Cys投与群ではほとんどみられず, 骨高径や骨幅の減少も認められなかった。歯肉組織中のMMP活性は, 感染群と比較して4 mg/kg/日のL-Cys投与群で最も有意に低下していた。

今回の実験結果から, L-Cysは歯肉組織中のMMP活性を有意に抑制して骨吸収抑制効果を示し, 歯周炎の薬物療法として応用できる可能性が示唆された。

歯磨きを教えよう!

～草の根支援事業プロジェクトと冒険歯科学学生ボランティア(バン格拉ディッシューJICAー北海道, 東北, 徳島大学)

○森田 康彦¹, 中山由香乃²
鳥居ちさほ², 正満 健斗²
山村 浩史², 篠原 響子²
石丸 美穂², 志摩 朋香²
下島 千明², 榎本 麻緒²
柴田 育², 柴 雅樹²
山本 芳輝², 中元 絢子²

¹徳島大学病院歯科放射線科

²北海道大学歯学部歯学科

独立行政法人国際協力機構(JICA)による草の根自立支援事業として, 北海道大学(以下北大)のおこなう“バン格拉ディッシュー国における健康増進のための予防歯科モデル事業”の概要を報告する。本事業は北大の行う事業であるが, 主体は現地のベンガル人北大大学院卒業生と北大学部学生ボランティアである。バン格拉ディッシューの北大学部学生の活動や訪問は1999年よりおこなわれ, ユネスコやJICAとの共同事業にまで発展した。この活動は大学主体ではなく, 学部学生の自主的活動である。この学生の国際交流, ボランティア活動に共鳴する教官群が事務と政治と財政面のバックアップと人材育成を支援

して、JICA 事業にこぎつけた。後開発国に必至の政治的混乱に翻弄されながら2008年に現地政府との協定を結び、予備調査をおこない、2009年夏には約1月間かけて現地歯科医師、小学校教員とともに11校およそ3000人弱の学童に歯磨き指導と口腔検診を施行した。また冬には教官と現地スタッフ主体による歯磨き指導をした。2010年夏も同様に学生ボランティアの参加を予定している。

既にドイツでは学部学生が災害被災地にさえ長期滞在し研究をおこなっている。我が国の教育機関での後開発国援助は大学院生の受け入れを主体とし、十分な対策を取った上でリスクを取る活動はほとんどなされていない。今後の人材育成のためのシステムが求められている。

(なお学生活動の概要は歯界展望2006年12月号に掲載されており、本事業は歯界展望2010年6月号に掲載予定である。)

口腔扁平上皮癌頸部リンパ節転移症例のFDG-PETCT 検査における SUV の回帰分析

○久保 典子¹、森田 康彦¹
石丸 直澄²、林 良夫²
森田奈緒美³、大塚 秀樹³

¹徳島大学病院歯科放射線

²徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
口腔分子病態学分野

³徳島大学病院放射線科

2007年1月から2009年8月の間にFDG-PETCT検査を行い、病理学的に頸部リンパ節転移のあった口腔扁平上皮癌患者8症例の11部位17個リンパ節を対象とし、PETCTにおけるSUVを病理学標本の計測値(リンパ節の全面積と腫瘍部分の面積等)を説明因子として、回帰分析で検証した。リンパ節の面積とSUVmaxの相関係数R値は1に非常に近く、p値は0.0009で信頼性が高いことが示された。切片もほぼ0となりモデルに一致した。腫瘍細胞の面積とSUVmaxの相関係数R値は1に近くP値は0.0004で相関関係を示したが、腫瘍面積の小さいものでばらつきが大きく、切片が2となった。

その結果、SUVmaxを全リンパ節面積と腫瘍面積の2つで説明するモデルを提案した。説明因子はリンパ節の面積と転移腫瘍部分の面積である。ある程度腫瘍面積のある場合は腫瘍面積とSUVmaxとの間に相関がみられ、臨床的に重要な小さい腫瘍ではリンパ節自体の大きさに影響されると考えた。

最近、頭を悩ませた臨床症例 その5 ～片側性下顎頭過成長を伴う顔面非対称症例の治療経験～

○高丸菜都美¹、玉谷 哲也¹
内田 大亮¹、堀内 信也²
永井 宏和¹、田中 栄二²
宮本 洋二¹

¹徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
口腔外科学分野

²徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
口腔顎顔面矯正学分野

今回われわれは、片側性の下顎頭過成長による顔面非対称症例に対して、下顎下縁切除と下歯槽神経移動術、オトガイ形成術、骨移植術を行い、顔面非対称の改善を図ったので、その概要を報告する。

患者は39歳、女性。顔貌の非対称を主訴に平成19年10月当院矯正歯科を受診した。外科矯正治療の相談のため、平成20年2月当科紹介となった。下顎は右方に偏位し、左側下顎下縁の下方への膨隆、オトガイの突出を認め、左側小臼歯は開咬を呈していた。骨シンチグラフィーでは左側下顎頭に明らかな集積は認めず、成長は停止していると判断した。患者が短期間での治療を強く希望したため、歯列矯正治療は行わず、平成21年8月下顎下縁切除術、オトガイ形成術、骨移植術を施行した。下顎下縁の切除線を下顎管より上方に設定する必要があったため、ピエゾサージェリー[®]を用いて下歯槽神経移動術を併用した。現在、術後8か月であるが、下唇の知覚鈍麻もほぼ消失しており、患者の満足度は非常に高い。

片側性下顎頭過成長による顔面非対称症例に対して、下顎下縁切除術、下歯槽神経移動術、オトガイ形成術、骨移植術を施行し、良好な結果が得られた。しかし、術後経過期間が短いため、移植骨の吸収などを含め、今後経過をみていく必要がある。

四国歯学会 第37回例会・第29回総会 記 録

プログラム

日時：2010年7月1日(木) 16:25より
会場：徳島大学歯学部大講義室(4階)

16:25 開会の辞 林 良夫 会長
16:30～17:00 総会

教授就任講演

座長 林 良夫

17:00~17:30

歯科麻酔科学の役割と展望

○北畑 洋

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
歯科麻酔科学分野

17:30~18:00

徳島大学歯学部における口腔内科学分野の役割

○東 雅之

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
口腔内科学分野

基礎系教育講演

座長 野間 隆文

18:00~18:30

蛋白質リン酸化と脱リン酸化による骨形成と骨吸収

○羽地 達次

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
口腔組織学分野

臨床指導講演

座長 藤澤 健司

18:30~18:50

舌痛を訴える患者さんについて考える
—舌痛症を中心に—

○桃田 幸弘, 東 雅之

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
口腔内科学分野

18:50~19:10

顎関節症の画像診断 —検査法の変遷—

○細木 秀彦

徳島大学病院 歯科 (歯科放射線科)

19:10 閉会の辞 河野 文昭 副会長

注意事項

- 教授就任講演について
講演時間30分とします。
- 基礎系教育講演について
講演時間20分とします。
- 臨床指導講演について
講演時間15分とします。
- 講演, 発表方法について
 - ・発表は液晶プロジェクター, 単写とします。
 - ・Microsoft社のPowerPointを用いてスライドを作成して下さい。
 - ・コンピューター (Windows PC と Mac) は発表者が御

用意下さい。

・前日の6月30日(水)16:00~18:00の間に, 動作確認を行ってください。

- 講演, 発表後に400字程度の抄録をメール (daisuke@dent.tokushima-u.ac.jp) にてご送付下さい (教授就任講演は必要ありません)。

第37回例会 基礎系教育講演・臨床指導講演 抄録

蛋白質リン酸化と脱リン酸化による骨形成と骨吸収

○羽地 達次

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
口腔組織学分野

蛋白質脱リン酸化酵素I型 (PP1) の各アイソフォームはマウスおよびヒト骨芽細胞にそれぞれ特異的な細胞内局在を示した。PP1 δ の細胞内分布は硝酸銀により検出されるNucleolar Organizer Regions (AgNORs) およびその構成蛋白のひとつであるニュークレオリン (C23) の細胞内局在と一致した。PKR酵素活性を欠失させたマウス骨芽細胞では, Runx2の転写活性や複数の骨分化マーカーの発現が抑制されており, 長期間培養しても石灰化は起きなかった。また, PKR不活性前破骨細胞の分化はRANKLの刺激によっても破骨細胞への分化は認められなかった。このことはPKRが骨芽細胞と破骨細胞の分化を調節していることを示している。骨の発生や分化に必須の転写因子Osterixには蛋白質脱リン酸化酵素II型 (PP2B) 結合モチーフが存在し, PP2Bと結合する。リコンビナントPP2BはOsterix蛋白質の脱リン酸化を促進した。以上の結果から, 蛋白質リン酸化酵素と脱リン酸化酵素は, 蛋白質のリン酸化を調節することにより, 骨芽細胞と破骨細胞の分化を調節していることが明らかになった。

舌痛を訴える患者さんについて考える —舌痛症を中心に—

○桃田 幸弘, 東 雅之

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
口腔内科学分野

舌痛を伴う疾患は多い。疼痛はQOLに関わり, 正確な診断と適切な治療が重要である。そこで, 舌痛を伴う

疾患の実態を知る目的に舌痛を主訴に来院した患者58名を臨床統計学的に検討した。

病歴聴取後、口腔内・外を診査し、エックス線・血液・培養検査とガムテストに基づき診断した。結果、口腔カンジダ症30例、口腔乾燥症17例、舌痛症16例、舌炎13例などであった。口腔カンジダ症で白苔や紅斑を認めるもの9例、認めないもの21例であった。口腔乾燥症で口渇を訴えるもの2例、訴えないもの15例であった。舌痛の診断には培養検査やガムテストが不可欠であり、検査が実施されなかった場合、舌痛症と診断される可能性が示唆された。

次に、心拍間変異分析による舌痛症の診断を試みた。結果、治療（直線偏光近赤外線星状神経節近傍照射）前後の自律神経の活動性の変化がVAS値の変化と相関し、本分析が舌痛症のマネジメントに有用であることが示唆された。

顎関節症の画像診断 — 検査法の変遷 —

○細木 秀彦

徳島大学病院 歯科（歯科放射線科）

顎関節症の画像診断の目的は、主に関節円板障害と骨関節症に対する鑑別診断である。

1979年4月から2009年3月までの30年間に5年以上の間隔をあけて本院を訪れた顎関節症患者を抽出し、行われた画像診断方法について検討した。

対象患者は、24名（男性1名、女性23名）であった。また、初診時の年齢は12歳～67歳、平均年齢は40.1歳、再来院までの間隔は5.4年～20.1年であった。初めに来院した際に行われた画像診断法としては、回転パノラマエックス線撮影法、顎関節パノラマエックス線撮影法、側斜位経頭蓋撮影法、断層エックス線撮影法等が多かった。一方、再来院時に行われた画像診断法は回転パノラマエックス線撮影法、顎関節パノラマ4分割エックス線撮影法に加えてMRI検査法が行われていた。

画像診断法の開発、病態の解明、加えて異なる画像診断法における異常像の検出に関する比較や顎関節症のNatural Courseという概念も加わり検査方法も変わってきていることが明らかになった。

四国歯学会会務報告

第28回総会は、平成22年7月1日（木）午後4時25分から歯学部大講義室（4F）にて開催された。
林 良夫会長の挨拶の後、伊藤理事を議長に選出して、以下の報告及び協議がなされた。

報告事項

1. 庶務報告（田中理事）

- 1) 運営委員会の開催 平成21年度第3回 3月4日（木）
平成22年度第1回 4月16日（金）
平成22年度第2回 6月8日（火）
- 2) 理事会の開催（第92回平成22年3月11日，第93回平成22年6月10日）
- 3) 現在会員数（平成22年3月31日現在，学内204名）
- 4) 退会会員数（平成22年3月31日現在，学内15名，学外6名），
21年度退会申し出数1名（学外）
- 5) 学外会員数（平成22年3月31日現在，358名）
- 6) 楯・メダル現在残数（平成22年3月31日現在，楯 34個，メダル 157個）

2. 学術報告（宮本理事）

第37回例会・第29回総会の予定について

3. 編集報告（尾崎理事）

- 1) 第22巻1号，2号の状況報告
- 2) 第23巻1号の状況報告

協議事項

1. 新監事の選出について

学内より羽地達次理事を，学外より徳島県歯科医師会理事学術部長の横山正秋先生を推薦し，承認された。

2. 平成21年度（2009年度）決算報告（別表1）および監査報告

会計決算報告について，日野出理事（会計）より説明があり，浅岡理事より監査報告がなされた後，決算は原案どおり承認された。

3. 平成22年度（2010年度）予算（別表2）

日野出理事から予算案の説明があり，原案どおり承認された。

4. 学位論文を投稿する際の留意事項について審議の上，承認された。

1. 平成21年度(2009年度)決算

収 入			決 算 高	予 算 高	差 異
繰 越 金			6,969,271	6,969,271	
入 会 金			31,000	20,000	11,000
本 年 度 会 費			1,028,000	1,100,000	-72,000
過 年 度 会 費			80,000	50,000	30,000
賛 助 会 費			375,000	325,000	50,000
過 年 度 賛 助 会 費			75,000	25,000	50,000
論 文 掲 載 料			967,578	1,000,000	-32,422
広 告 掲 載 料			385,000	200,000	185,000
雑 収 入			58,481	30,000	28,481
小 計			3,000,059	2,750,000	250,059
合 計			9,969,330	9,719,271	250,059

支 出			決 算 高	予 算 高	差 異
学 会 開 催 費			30,616	250,000	-219,384
会 誌 印 刷 費			1,402,180	1,800,000	-397,820
通 信 連 絡 費			55,751	120,000	-64,249
事 務 費			38,575	70,000	-31,425
事 務 委 託 補 助 費			50,000	100,000	-50,000
備 品 費			0	35,000	-35,000
国 際 交 流 事 業 費			0	200,000	-200,000
事 業 費			59,859	100,000	-40,141
朝 鮮 大 学 校 交 流 事 業			0	125,000	-125,000
国 際 シ ン ポ ジ ム 補 助 費			0	100,000	-100,000
予 備 費			0	100,000	-100,000
支 出 合 計			1,636,981	3,000,000	-1,363,019
次 年 度 繰 越 金			8,332,349	6,719,271	
合 計			9,969,330	9,719,271	

2. 平成22年度(2010年度)予算

収 入			予 算	支 出			予 算
前 年 度 繰 越 金			8,332,349	学 会 開 催 費			250,000
入 会 金			20,000	会 誌 印 刷 費			1,400,000
本 年 度 会 費			1,000,000	通 信 連 絡 費			120,000
過 年 度 会 費			50,000	事 務 費			70,000
賛 助 会 費			175,000	事 務 委 託 補 助 費			100,000
過 年 度 賛 助 会 費			25,000	備 品 費			35,000
論 文 掲 載 料			600,000	国 際 交 流 事 業 費			200,000
広 告 掲 載 料			300,000	事 業 費			100,000
雑 収 入			30,000	朝 鮮 大 学 校 等 交 流 事 業			225,000
合 計			10,532,349	国 際 シ ン ポ ジ ム 補 助 費			300,000
				予 備 費			100,000
				支 出 合 計			2,900,000
				繰 越 金			7,632,349
				合 計			10,532,349